

総題 “ヨハネの黙示録”

教団青年部

		2019年1月5日～1月12日
第2課	題：「燭台の間を」	執筆者：下地英樹

● 今週のポイント

- ① 今週と来週は、ヨハネの黙示録2章、3章に記されている7つの教会について学びます。（今週は、1つ目の教会であるエフェソの教会について学びます。）
- ② 年老いた使徒ヨハネは、福音に忠実であったゆえに投獄され、パトモス島に流刑されました。そこで、神様から幻が与えられました。「しかし、神のしもべにとって、この陰気な住居は天にいたる道となった」（『希望への光』1574頁、聖書ガイド12頁）。
- ③ ヨハネは、「主の日」（安息日）に幻を受けました。
- ④ ヨハネは幻の中で、祭司のような服を着て燭台の間を歩いておられるイエス・キリストを見ました。
- ⑤ 燭台は聖所に置かれており、7つの燭台は7つの教会を象徴していました（黙 1：20）。それだけでなく、燭台は歴史上のイエスの教会を象徴しています。
- ⑥ 燭台の間を歩かれるイエス・キリストのお姿は、今も御自分の教会を見守り続けておられることを象徴しています。
- ⑦ 祭司たちは、聖所の中の燭台のともし火が明るく燃え続けるように、油を補充し、燃え尽きた芯を取り替えていました。同じように大祭司なるイエス・キリストは、それぞれの燭台の状態をよく知っておられ、彼らのために執りなして下さいます。
- ⑧ イエス・キリストは「初めであり、終わりである」（同 1：17）という称号によって、御自分が誰なのかを明らかにされました。彼は「生きている者である。そして死と黄泉をかぎを持っている」（同 1：18）者であり、御自分の死と復活によって、死の門を開く機能を与えられました。
- ⑨ 7つの教会に宛てた書かれた手紙は、実在した教会に宛てて書かれた手紙であると同時に、人類の歴史上の神の教会の霊的状况にも当てはめることができ、あらゆる時代のクリスチャンに対する教訓も含まれています（聖書ガイドでは、歴史的適用、預言的適用、普遍的適用と書かれています）。
- ⑩ 1つ目の手紙は、エフェソ教会に宛てて書かれました。エフェソは、ローマのアジア州最大の都市で、商業と宗教の中心地でした。彼らは忠実さと愛で知られていましたが、だんだん愛が薄れてしまったことが記されています。エフェソ教会は、30年から100年までの教会の霊的状况と一致します。

● ディスカッションのためのテーマ

- ① 燭台の間を歩かれるイエス・キリストは、何を象徴していますか？
- ② ヨハネが幻で見たイエス・キリストはどんなお姿でしたか？特徴をあげてみてください。
- ③ 信仰の火を燃やし続けていくためには、どうしたらよいでしょうか？